

英語専攻

🌐 実社会・世界で活躍できる高度な実践的英語運用能力を涵養するとともに、英米の言語、文学、文化、歴史、政経、国際ビジネスの各分野において専門的知識を身につけ、自らの主張を明確に発信しようとする学生を求めています。



グローバル化が進む現在、英語は、あらゆる領域においてインタラクティブに最新の情報を交換するコミュニケーションに不可欠な世界言語として、極めて重要な役割を果たしています。

英語専攻は、グローバルに活躍できる高度な実践的英語力と専門知識、そして自らの主張を明確に発信できるコミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目標にしています。この目標に向かって、1、2年次に、徹底した語学実習により高い英語運用能力を養い、3年次進級要件となる基準レベル（TOEIC 730点、英検 準1級等）を上回る英語力を涵養するとともに、言語学的に見た英語の姿、英語圏の文学・文化についても幅広い知識を身につけます。進級後の3、4年次では、ネイティブ教員によるDiscussionの上級クラス、Essay Writing、同時通訳を含む多様な専攻語科目により、さらなる英語運用能力の強化を図ります。

また3年次から専門的研究授業を受講するとともに、文学・文化系、言語系、歴史・政経系の中からゼミを選択。卒業までの2年間、ゼミで、専門書購読、調査・研究、プレゼンテーション、討論により専攻領域への理解を深め、英語による卒業論文の執筆が研究の集大成となります。

外国語学部英語専攻の最大の特徴は、プラクティカルとアカデミックの両面で卓越した英語運用能力があっはじめて成立する国際水準の最先端の学問を追究するという点です。そのためにも、皮相的な英語力ではなく、将来を切り開くうえで大きな糧となる思考能力、教養ある国際人が持つ高度なコミュニケーション能力の習得が期待されます。

前身の大阪外大の徹底した少人数教育によって鍛え上げられた英語専攻の卒業生は、商社、製造、金融、流通、運輸、マスコミ、観光、通訳・翻訳、官公庁、教育など、多方面で活躍しています。大学院に進学し、研究者として活躍している人材も少なくありません。優秀な卒業生を輩出してきた外大の伝統を受け継ぎ、いっそうの飛躍を遂げる英語専攻は、皆さんの入学を心よりお待ちしております。

Good Morning / Afternoon / Evening. Hello / Hi!

学生の声 

3年 立谷 朱鳳

大阪大学外国語学部では、今までなかったような様々な体験が出来ます。一年次は履修科目の選択肢が広く、様々なジャンルの中から自分の好きな授業を取ることが出来ます。英語専攻では、スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの4技能を補う授業が必修ですが、主にライティングとリスニングに重点が置かれます。夏休みと春休みも2か月弱と長くなるので、それを利用して海外旅行に行く学生も多いです。二年次からは箕面キャンパスに移り、より専門的な勉強をします。教養科目も世界の文化を知るものが多く、映像作品や教科書を使い、様々な角度からその国を分析します。三年次からはゼミの配属が決まり、履修科目数も減ってくるので、合間にアルバイトやインターンシップをする人も多いです。英語専攻の場合、ゼミは合わせて10個あり、文学・演劇・歴史・政治経済・言語学のジャンルが英米に分かれて開講されています。四年次では卒業論文を書く傍ら、就職や進学準備にいそむ学生が殆どです。

大学では「自分で考えること」を重視するため、今まで以上に自習が大事になってきます。履修や授業で不明な所があれば、先輩に聞いてみるのが得策です。もう周りの先生は懇切丁寧にやることを教えてくれませんかから、積極的にになって、後悔の無いようにどんどん自分のやりたいことをやってください。



留学体験記 

4年 村山 綾香

私はカリフォルニア大学サンタバーバラ校コミュニケーション専攻に3年生の後期から1年間交換留学をしました。大阪大学では、アメリカ現代演劇のゼミに入っていたのですが、そこでの学びから、表現の根本であるコミュニケーションという日本ではあまり学べない分野に興味を持ったからです。大阪大学で培った英語力を本場で試したいという気持ちもありました。実際、留学は授業と生活の両面で大変で、つらいときは、同じ専攻の、他地域に留学していた友達と悩みを共有し、一緒に頑張りました。

留学先の授業はチャレンジングで、膨大な課題の量、授業スピードの速さにめげそうになったこともありましたが、しかし、英語専攻の授業で学んだエッセイの書き方、ネイティブの先生のディスカッションの授業などが役に立ち、GPA（成績評価値）を落とさず留学を乗り切れました。特に、自分の専門のアメリカ現代演劇の授業では、最高評価を得ることができ、日本での学びがアメリカで通用するという実感や自信を持って帰国し、ゼミに取り組めるようになりました。

ルームメイトとの共同生活は、価値観の違いで苦労もしましたが、お互いの文化を知るいい機会になり、今も連絡を取り合うかけがいのない友達を作ることができました。

私にとって留学は、今までの学びを違った視点から見つめなおし、より専攻への理解を深めるきっかけで、これがゴールではありません。留学で得たものを生かし、今また大阪大学で授業に取り組んでいます。

